

I. 出エジプト記で、十戒は証しの板と呼ばれています。戒めは二つの面で神について証しします：
出32:15 そこで、モーセは向き直り、二枚の証しの板を手にして山から下りた。板には両面に書かれており、こちら側にもあちら側にも書かれていた。

A. 第一に、十戒は、神が唯一の神であることを証しします。

出20:2 「私はエホバ・あなたの神であって、あなたをエジプトの地から、奴隷の家から連れ出した者である。3 あなたは私の前で、他の神々を持ってはならない。

B. 第二に、十戒は、神が愛、光、聖、義の神であることを証しします。

II. 第20章1節から第23章19節で、律法とその規定が神によって公布されました。そして第24章12節で、神はモーセを山頂に召して、彼に律法の板、すなわち、証しの板を与えました：

出20:1 それから、神はこれらすべての言葉を語って言われた、23:19 あなたの土地の初穂の最初のもものを、エホバ・あなたの神の家に持って来なければならない。24:12 エホバはモーセに言われた、「山頂の私のもとに上って来て、そこにいなさい。私は律法と戒めの石の板をあなたに与えよう。これは、彼らを教えるために私が書いたものである」。

A. 律法は神の言葉また神の証し(神の表現)として、神の御言また神の証し(神の表現)としてのキリストの予表です。出34:28 モーセはエホバと共に四十日四十夜、そこにいた。彼はパンを食べず、水を飲まなかった。エホバは契約の言葉、十の戒めを板に書き記された。

ヨハネ1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

B. キリストは律法(すなわち神の証し)の実際です。神の証しは、神の具体化であるキリストを表徴し、神が何であるかの生ける描写です。コロサイ2:9 なぜなら、キリストの中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいるからです。

C. 律法を守ることの実際は、神を生き神を表現することです。そのような生活、すなわち神の永遠のエコノミーの中の生活は、神・人の生活、すなわち、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、絶えず霊を活用して自己を否み、十字架につけられて、神の証しであるキリストを生きる生活です。それは神の拡大され拡張された表現のためです。

マタイ16:24 それから、イエスは弟子たちに言われた、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、自分の十字架を負い、私に従って来なさい。

ピリピ1:21 なぜなら、私にとって生きることはキリストであり、死ぬことは益であるからです。1・月

Ⅲ. 律法の公布が完了する前にさえ、民は偶像礼拝の罪へと落ち込むことによって、少なくとも律法の初めの三つの戒めを破りました。証しの板を打ち砕いたことは、イスラエルの子たちが律法を受ける前に、すでに律法と律法の契約を破っていたことを示します：

出20:2「私はエホバ・あなたの神であって、あなたをエジプトの地から、奴隷の家から連れ出した者である。3 あなたは私の前で、他の神々を持ってはならない。4 あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、地の下の水の中にあるものの、どのような形をも造ってはならない。5 それらにひれ伏してはならない。それらに仕えてはならない。私はエホバ・あなたの神であり、ねたむ神であって、私を憎む者には、父の罪科を子に報いて三、四代に及ぼすが、6 私を愛し、私の戒めを守る者には、慈愛を千代にまで施すからである。

32:19 モーセは営所に近づくと、子牛と踊りを見た。モーセの怒りは燃え上がり、彼は手からあの板を投げ捨て、それを山のふもとで打ち砕いた。

A. 人が神を偶像で置き換えることは、人が神の戒めを守ることができないようにします。

Iヨハネ5:21 小さい子供たちよ、偶像から自分自身を守りなさい。

エゼキエル14:3「人の子よ、これらの人たちは彼らの偶像を心の中に抱き、自分の罪科のつまずきの石を顔の前に置いている。私は彼らの願いをすべて聞くべきであろうか？

B. 私たちの心の中の偶像は、私たちが内側で主以上に愛するあらゆるものであり、私たちの生活の中で主を置き換え、私たちを腐敗させ、多くの罪深い事物をもたらすあらゆるものです。

出32:7 エホバはモーセに語られた、「さあ、下って行きなさい。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は墮落してしまった。ローマ1:20 神の見えない永遠の力と神性の特徴は、世界が創造されて以来、明らかに見られており、造られた物によって認められているので、彼らには弁解の余地がありません。21 彼らは神を知っていながら、神として彼に栄光を得させず、感謝もせず、かえって彼らの思考はむなしくなり、彼らの愚かな心は暗くなりました。

C. 自分の心の中に偶像を据える者は、彼らの偶像を通して主から離されてしまいます。自分の内側に偶像を持つ者はみな、外側で神を捜し求めても、神を尋ね見いだすことはできません。

Ⅳ. イスラエルの子たちが金の子牛を拝んだ後、モーセは営所の外のある場所に移動し、主を求める者はみなそこに行って彼と共に集まりました。なぜなら、主の臨在と語りかけがそこにあったからです：

A. 私たちは金の子牛の偶像の原則を見て、それによって警告される必要があります。神の贖われた民が造った偶像は、彼らを偶像礼拝の営所としました：

1. 民が金の耳輪を着けたのは、自己を装飾するためでした。これは、自己を装飾することが偶像礼拝に導くことを示します。

2. さらに、耳輪の金は、イスラエルの子たちがエジプトから脱出する前に、神によって彼らに与えられ、幕屋の建造に用いられるものでした。

出12:36 エホバは、民に対してエジプト人の目に好意を持つようにされ、民が求めるものをエジプト人が与えるようにされた。こうして、彼らはエジプト人の財物を奪い取った。

3. しかしながら、金は神の定められた御旨のために用いられることができる前に、サタンによって強奪され、神の民が偶像を造るのに用いられました。

4. ですから、偶像礼拝は、神が彼の定められた御旨のために与えたものを、サタンが強奪し、人が乱用して、それを無駄にすることです。それは、神が私たちに与えたものを、私たちが乱用することであり、物質のものであれ霊的なものであれ、神の賜物を神の定められた御旨のために用いないことです。

5. 金の子牛は異教の偶像ではありませんでした。なぜならそれは、神によって立てられた真の大祭司アロンによって造られたからです。さらに、アロンはエホバの御名の中でその子牛を造り、神にささげ物を献げ神を礼拝する方法で、率先して偶像を拝みました。

出32:8 彼らは早くも、私が彼らに命じた道からそれてしまった。彼らは自分たちのために鑄造の子牛を造り、それを拝み、それに犠牲をささげて、『イスラエルよ、これはあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ！』と言っている。

6. こうして、神の贖われた民は、エホバ・彼らの神の御名の中で、神によって定められた方法で偶像を拝みました。

7. 偶像礼拝は、真の神を礼拝することを装っており、神を礼拝することにおいて混合があります。

8. 子牛は労働のためではなく、食べるためであり、それゆえに享受を表徴します。金の子牛が造られた後、民はその前で食べ、飲み、立って戯れました。

I コリント10:7 また彼らのある者のように、偶像を拝む者となつてはいけません。「民は座して食べ飲みし、立って戯れた」と書かれているとおりです。

9. この絵は、イスラエルの子たちが享受したものを拝んだことを示します。彼らが金の子牛を拝んだことは享楽と娯楽であり、この享楽と娯楽が彼らの偶像であったことを示しました。

10. 私たちが注意するのは主の臨在(御顔)です。彼の御顔には満ちあふれる喜びがあります。

B. モーセは、主の臨在がもはや民のただ中になことを認識したので、彼の天幕を移し、営所から離れた所にそれを張りました。そして彼の天幕は神の天幕となりました：

出33:7 モーセは天幕を取って、営所の外で営所から離れた所にそれを張り、それを集会の天幕と呼んだ。エホバを求める者はみな、営所の外にある集会の天幕に向かって出て行った。

1. 営所は宗教的な人々を表徴し、彼らが主に属しているのは名ばかりで、実際は偶像を拝み、主ご自身以外のものを拝み、尋ね求めています。

2. 神の民の歴史の中で、営所は三つの時期に見られます：

a. 営所はまず、金の子牛を拝んだ後のイスラエルの子たちでした。

b. 主が地上で生活していた時、ユダヤ宗教は営所となりました。

マタイ15:7 偽善者よ！ イザヤはよくもあなたがたのことを適切に預言して言ったものだ、**8**『この民は、口先では私を敬うが、その心は私から遠く離れている。 **9** 彼らは人の戒めを教えとして教えながら、無意味に私を礼拝している』。

c. 後ほど、召会は性質を、天幕であることから営所、すなわち宗教組織、宗教のバビロンに変えました。それは一組の宗教的な人々で構成されています。彼らが主に属しているのは名ばかりで、口では主を尊んでいても、心を主以外のものに置いています。

3. モーセが彼の天幕を移して、それを偶像礼拝の営所から分離した後、人が自分の仲間に語るように、主は顔と顔を合わせて彼に語りました：

出33:11 人が自分の仲間に語るように、エホバは顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセは営所に戻ったが、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者は、天幕から離れないでいた。

a. 神とモーセは仲間、同僚、パートナーであり、同じ働きにかかわり、大いなる事業の中で共通の権益を持っていました。

b. モーセは神と親密であったので、神の心を知る人であり、神の心にかなう人であり、神の心に触れることができた人でした。ですから、彼は満ち満ちた程度にまで神の臨在を持っていました。

出33:14 エホバは言われた、「私の臨在があなたと共に行って、私はあなたに安息を与える」。

c. 私たちは幕の内側に入り、偶像礼拝の営所の外に出て、主との最も近い、最も親密な関係を持つ必要があります。それは、私たちが神との共通の権益にあずかる人になり、神に用いられて、地上での彼の事業を完成することができるためです。

4. 主を求めている人はみな、営所の外に出て、天幕にいる彼へと行かなければなりません。

V. ヘブル人への手紙の目標と究極の結論は、私たちが幕の内側に入り、営所の外に出ることです：
ヘブル6:19 私たちが持っているこの望みは、安全で確固とした魂の錨であり、幕の内側に入って行くものです。20 先駆者イエスは、永遠にメルキゼデクの位による大祭司となって、私たちのために幕の内側に入られたのです。13:13 ですから、私たちは彼のそしりを担い、営所の外に出て、彼へと行こうではありませんか。

A. 幕の内側に入ることは、至聖所へと入ることを意味し、至聖所で主は栄光の中で御座に着いています。営所の外に出ることは、宗教から出て来ることを意味し、主はこの宗教から拒絶されて追い出されました：

1. 営所は、地に属し人に属する宗教の組織を表徴します。
2. あらゆる宗教は人の組織であり、地的な領域であって、人々を神のエコノミーから遠ざけます。

B. 私たちは私たちの霊の中にいなければならず、経験的に言って、今日、実際の至聖所は私たちの霊の中にあります。私たちはまた宗教の外にいなければならず、今日、実際の営所は宗教の中にあります：

1. 私たちは霊の中にいて天のキリストを享受すればするほど、ますます宗教の営所の外に出て、苦難を受けたイエスに従います。
2. 私たちは、霊の中にとどまって、栄光の中にいる天のキリストと接触すればするほど、ますます宗教の営所の外に出て、卑しめられたイエスへと行き、彼と共に苦難を受けます。
3. 真の新約の務めは私たちを、霊の中の、すなわち幕の内側の、キリストに対する享受へともたらし、また私たちを強めて営所の外でイエスに従わせ、彼のからだのために彼の苦難の交わりにあずかせます：

Ⅱコリント11:2 私は神のねたみをもって、あなたがたをねたんでいます。なぜなら、あなたがたを清純な処女としてキリストにささげるために、一人の夫に婚約させたからです。3ところが、私が恐れるのは、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが腐敗させられて、キリストに対する単純さと純潔を失いはしないかということです。

- a. 幕の内側で、私たちは天のキリストの務めにあずかり、装備されて、営所の外で渴いている霊に彼を供給します。
- b. 私たちは、幕の内側に入り営所の外に出ることによって、神のみこころを行なうために、あらゆる良いわざをもって成就されます。この神はご自身の目に喜ばれることを、私たちの中で行ないます。 **5・金**

C. 幕の内側に入ることは、私たちの霊の中へと入ることです。私たちは霊に戻り霊を訓練するとき、幕の内側に入ります：

I テモテ4:7 しかし、俗悪で、老婆じみた作り話を拒絶し、自分自身を訓練して、敬虔へと至りなさい。8 なぜなら、体の訓練には多少の益はありますが、敬虔はすべての事柄に益があつて、現在の命の約束と、来たるべき命の約束を伴っているからです。

1. 私たちは、私たちの霊を燃え立たせ、私たちの思いを霊に付け、私たちの霊を魂から識別することによって、私たちの霊を活用し、用い、使わなければなりません。

II テモテ1:6 こういうわけで、私があなたに思い起こさせたいのは、私の按手を通して与えられているあなたの内にある神の賜物を、再び燃え立たせることです。7 というのは、神が私たちに賜わったのは、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊であるからです。

ローマ8:5 なぜなら、肉にしたがっている者は、肉の事柄を思い、霊にしたがっている者は、その霊の事柄を思うからです。6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

ヘブル10:22 …真実な心で、信仰の全き確信をもって、至聖所に進み出ようではありませんか。4:12 なぜなら、神の言は生きていて効力があり、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができるからです。

16 ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。

2. 私たちは、私たちの霊を活用して、幕の内側に入り、天のキリスト、栄光の中の人と直接の接触を持ち、彼を見つめ、彼によって伝達され注入されて、彼の団体の複製とならなければなりません。II コリント3:18 しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいの顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

3. 幕の内側にいることは至聖所にいることであり、この領域の中で、私たちはキリストにあずかり、彼を隠されたマナ、芽を出した杖、命の法則として享受し、その結果、神の団体の表現をもたらして、神の永遠の定められた御旨を完成します。

ヘブル9:3 また第二の幕の後ろにある幕屋は、至聖所と呼ばれています。4 そこには金の香壇と、全面、金で覆われた契約の箱が有って、その中には、マナが入っている金のつぼと、芽を出したアロンの杖と、契約の板とがありました。

経験(ビジネス・ライフ編):

- ① 出32:18 しかし、モーセは言った、「それは、勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を叫ぶ声でもない。私が聞くのは歌う声だ」。19 モーセは宮所に近づくと、子牛と踊りを見た。

民は金の子牛を造りました。子牛は労働のためではなく、享樂のため、特に、食べるためです。…金の子牛が造られた後、民は食べ飲みし、戯れました。C・A・コーテスは、彼らは遊んだと言っています。週末にこの国の多くの人々は、食べること、飲むこと、遊ぶことにだけ関心があります。…この絵は、子牛が享樂を表徴し、イスラエルの子たちが享樂したものを拝んでいたことを示します。

多くのビジネス・パーソンは金曜日の夜と土日を自分の享樂のために用いています。イスラエルの民は金の子牛(享樂を表徴する)を作り、それを礼拝しました。これらの食べること、飲むこと、遊ぶことは、彼らの偶像になっています。実際にはこのような享樂によって、人々は、淫行、偶像礼拝、争い、汚れ、好色、怒りの爆発、分裂、ねたみ、泥酔、宴樂などを行っており、それらによって彼らは傷つけられ、腐敗させられているのです。主にある信者であるあなたは、聖徒たちと共に神を享樂し、神の言葉を語り、人々に神を供給し、彼らを励まし、慰め、力づけるべきです。週末を専ら自分の娯樂のために使うのではなく、主と共に、聖徒たち、新人たち、福音友人たちと過ごしてください。そうすれば、あなたは神を真の娯樂として享樂することができ、他の人にも主の中にある喜びを分け与えることができます。このような生活はあなたに聖別されたビジネス・ライフを送らせ、あなたは神の祝福の下でビジネス上の業績を上げることができます。

- ② ヘブル4:16 ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。

私たちはまず至聖所に入り、そこで宮所の外に出るよう力づけられ励まされ、それから宗教の組織から出るのです。幕の内側に入れば入るほど、私たちはますます宮所の外に出ます。私たちは霊を活用してはじめて、これを行なうことができます。すでに見てきたように、私たちの霊は天の至聖所に結合されています。私たちは霊に戻り、霊を活用するとき、幕の内側に入ります。ここで私たちは、天のキリストの天の務めにあずかります。…ここで私たちは恵みを受け、力づけられて、宮所の外に出て、十字架の小道を主に従って行きます。…私たちの霊の中に入ることによって幕の内側に入るとき、私たちは天のキリストの甘さを味わい、宮所の外に出て、地と地に対する愛を捨てることができるようになります。

宗教とは命を与える霊であるキリストなしに神を礼拝することです。もしあなたが自分の霊を訓練しないなら、あなたは命を与える霊である生けるキリストに触れることができないので、宗教から出ることはできません。あなたを実際に力づけることができるのは、知識上のキリストではなく、命を与える霊である生けるキリストです。したがって、あなたは必ず自分の霊を活用してください。

414 キリストを経験する—彼と交わる(英)

- 1 まくに入り、えい所、出る、天あじわい、地を捨てる；
聖のせいで満たされて、空のくうにだまされず。
- 2 まくに入り、えい所、出る、天にあれば、地はなれる；
天のえい光したうなら、地のふくをもとめない。
- 3 まくに入り、主をあおぎ、營所を出てイエスに行く；
かんむり、御座、はげませば、十字架おそれずあゆむ。
- 4 まくに入り、復かつ得る、營所、出て、十字架を負う；
天の御かお見るならば、地でいさましくあゆむ。
- 5 まくに入り、天あじわい、營所、出て、患なんしのぶ；
地はいたみあたえるが、天はわがれいを生かす。
- 6 まくに入り、主を享受し、營所、出て、ひとを満たす；
天のいのち、われ生かし、地でひと、しゆくふく得る。
- 7 まくに入り、えい所、出て、まく失せるまですすめ；
天と地がむすびついて、かみ、ひと、住み合うまで。

414 經歷基督—與祂交通

- 1 進入幔內，就必出到營外，嘗到天美，就必丟棄地愛；
聖中之聖如果滿足我心，空中之空豈能欺騙我魂？
- 2 進入幔內，就必出到營外，天一同在，就必使地離開；
天上榮耀如果吸引我靈，地上福樂豈能霸佔我情？
- 3 進入幔內，瞻仰榮耀基督，出到營外，跟隨卑微耶穌；
寶座、冠冕，如果將我鼓舞，馬槽、十架，豈能使我裹足？
- 4 進入幔內，吸取復活大能，出到營外，奔跑十架路程；
我若看見祂在天上面容，就必步武祂在地上腳蹤。
- 5 進入幔內，飽嘗天上肥甘，出到營外，忍受地上艱難；
地上經歷雖使我心酸痛，天上交通卻叫我靈讚頌。
- 6 進入幔內，享受主的上好，出到營外，供應人的需要；
天上生命如果從我活出，地上靈魂就必因我得福。
- 7 進入幔內，直到幔子不存，出到營外，直到營都滅盡；
直到天地所有同歸於一，直到神、人永遠 不再分離。

549

- 1 Enter the veil and go without the camp,
Taste heaven's sweetness, thus the earth forsake;
If by the Holiest I am satisfied,
How can I of earth's vanities partake?
- 2 Enter the veil and go without the camp,
By heaven's presence will the earth depart;
If heaven's glory doth my spirit charm,
How can earth's happiness possess my heart?
- 3 Enter the veil, behold the glorious Christ,
Go out the camp to Jesus, let Him lead;
If throne and crown my spirit here enthrall,
Manger and cross cannot my steps impede.
- 4 Enter the veil for resurrection pow'r,
Go out the camp to bear the cross and woe,
If I His radiant face in heaven see,
His footsteps I will follow here below.
- 5 Enter the veil, on heaven's fatness feast,
Without the camp, in hardship persevere;
Though earth trials sorely pain my heart,
Heaven's communion doth my spirit cheer.
- 6 Enter the veil, Christ's riches there enjoy,
Without the camp, the needs of men supply:
The life of heaven living out thru me
The souls of earth will bless and satisfy.
- 7 Enter the veil till it exists no more,
Go out the camp till all the camps are gone:
Until the heavens and the earth unite,
Till God and man together dwell in one.